




5・6年の地図指導は 「広がり」と「人物の動き」で見えてくる

玉川大学教育学部(前・愛知教育大学)教授 寺本 潔

① 5・6年の社会科は 地図中心で見えてくる

5・6年の地図指導は社会科学習の成否を決めるくらい重要だ。指導要領でも繰り返し地図帳や地球儀の活用がうたわれている。日本の食料生産や工業生産、環境や情報単元、歴史や国際理解単元のいずれでも地図活用が鍵を握っている。もちろん、教材としての主役は米であったり自動車だったり、源頼朝や外国の文化だったりするわけだが、主役を引き立たせる脇役として地図は抜群の効力を発揮する。物事の「どこで」は、同時に「なぜ」や「どのように」を類推できる鍵ともなるからだ。教科書の中の記述を地図帳で確かめるだけでも事物・事象の背景やリアリティがはっきりしてくる。

たとえば5年の自動車産業の学習で主要な自動車生産工場の場所を押さえるため、一例として『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（以下、地図帳）のp.33-34「名古屋市とそのまわりのくわしい地図」を開かせて自動車「」の絵記号を地図帳の中から探させてみよう。すると自動車積み出し港が近くにあること、製鉄所「」や発電所「」の地図

記号も近くに見つかること、部品や完成車の輸送に便利な道路が整備されていること、ある程度人口規模が大きくて働く人が多く住んでいることなどが読み取れてくる。つまり、「どういった条件がそろって自動車生産が盛んになるのか」を考えることができるわけである。産業学習が主な内容の5年の社会科は、地図帳を使って生産が盛んな条件を考えると児童の頭の中にもいわば「学習の認知地図」ができ、知が構造化してくる。このことは、後述する図解型板書と相まって授業の効果をあげることに繋がっていく。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.33

同様に、6年の歴史学習でノルマントン号事件（1886年）を教科書で扱う際に、事件が起きた和歌山県潮岬の沖合を地図帳で確かめさせるだけでも、この事件が本当にこの場所で起きたことを児童に理解させることができる。乗客であった25人の日本人全員が死亡。白人は全員生還といった結末はこの事件への日本人の注目を大きくしていった。イギリス人たちが裁判で軽い罰を受けただけで済んでしまったことへの世論からの強い批判を受けて国が不平等条約改正に向けて大きく動き出した経緯がわかるようになる。つまり、**地図は実際に起こった歴史的事象のリアリティを増す働きを果たしてくれるのである。まさに「地図中心」で5・6年生の社会科が展開できる。**

② 環境保全は「広がり」で見えてくる

5年の3学期に環境単元を扱う教科書が多い。新しい学習指導要領では「内容(1)のエ」に「国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止」が項目としてあがっている。森林が国土の環境保全に役立っている側面に気づかせ、地球温暖化と森林の未来、災害防止に努めている国や県の対策や事業について考えさせる学習が期待されている。4年生で扱った飲料水の水源を涵養する森林としての役割だけでなく、国土や世界に視野を広げて、森林がCO₂を吸収したり、がけ崩れを防止したり、生物の棲家となったり、森林浴の場などで活用できたり、温暖化を防いだりするなど、多様な役割に気づかせる単元になっている。

実際の学習では、いきなり日本全国の森林に目を向ける扱い方では、児童の興味・関心は深まらないだろう。まずは自県にある森林を取り上げ、児童も知っている川の上流を地

図でたどらせ、自県の森林（山地）面積の数字と平野の面積の数字を比べて確認させたり、国立公園や国定公園の存在が地域の環境保全に貢献していること、酸性雨などによって県の森林が被害を受け地球環境問題とも密接な関係があることなどを扱ったりすると効果的である。これらの指導にはどうしても地図帳や地球儀の活用が不可欠である。県の地図で森林が広がっている山地のエリアを緑色で塗ったり、同じような森林が国土全体にも広がり、国土に占める森林の割合を調べたりするなど地図で「広がり」を常に意識させるように指導すれば、我が国の国土に広がる森林の価値に気づかせることができる。もちろん、地図帳の巻末（p.72）に掲載されている世界自然遺産や国の天然記念物など保全されるべき生き物を登場させると児童の興味はさらに高まるだろう。

③ 6年の歴史学習は 「人物の動き」で見えてくる

日本の歴史にはいろいろな人々が登場してくる。学習指導要領で示された卑弥呼から野口英世までの42名の人物だけでなく、歴史的な出来事に関与した人物は多い。地図帳が歴史学習でも活用されるためには前述したように歴史的事象の起こった場所を地図で確認するだけでなく、歴史上の人物の動きを地図で確かめる指導が効果的である。

たとえば、平氏との戦いで大きな働きをした源義経の動きを地図で追っていけば、平氏の滅亡から鎌倉幕府へと上手くつなげていくことができる。ザビエルやペリーの動いたルートを地図帳で確かめれば、当時の外国と日本との関係が読み取れてくる。西郷隆盛や大久保利通も同様で彼らの動きが明治維新そのものを語ってくれるから面白い。地理的感覚

を伴う歴史学習こそ歴史をいっそう身近なものにしてくれる。

筆者のオリジナルな指導法で恐縮だが、地図にタッチしながら人物の動きを再現する指導法をご披露しよう。薩摩と英国の戦い（薩英戦争）のきっかけとなった生麦事件（1862年）を扱う際も、人物の動きに着目すれば事件が地図上で再現できる。「東京都とそのまわりのくわしい地図」（p.37-38）の中に事件が起きた場所が青色の枠で記されている。この事件は、横浜に来ていた英国人たちが週末に乗馬で郊外に出かけた際に薩摩藩の島津久光の行列を乱したことで英国人たちが切られた事件である。指導の工夫として児童の左手の人さし指を出させて「この指を馬に乗った英国人たちと思うようにしてください。」と指示する。次に、右手の人さし指を江戸幕府の青い文字枠に置かせて「この指を薩摩藩の大名行列（島津久光）と思うようにしてください。」と指示する。最後に両手の人さし指をゆっくり国道1号線（旧東海道）に沿って動かし、地図上の生麦事件の場所でぶつめるように促すと効果的である。

④ 情報単元も地図帳で扱おう

「情報化した社会の様子と国民生活とのかわり」が強化された新しい情報単元は指導が難しい。医療や福祉、防災、教育などの公共にかかわる情報サービスを扱う場合、地域的な事柄として地図が登場する場合がある。離島や山間僻地を抱える自治体での医療ネット整備、水害や地震、津波災害に対応するためのハザードマップなど地図をもとに考えさせる場面がある。しかし、地図帳はあまり使用しないで終わりそうである。地図帳には、「日本の放送網」（p.60）という主題図も掲載されているにもかかわらず、肝心の情報ネットワークがどういったしくみで私たちの生活を向上させているのかをつかませないまま学習を終えている例がある。

今回、リニューアルされた情報単元は、放送や新聞などの産業を確かに扱うが、これまでのように児童にCM制作や壁新聞づくりに向かわせる扱いでなく、もっと情報産業が自分たちの暮らしに大きな影響を与えていることに注意を向けさせるように変更されている。



ともすればシナリオ書きや新聞記事の下書きなどに多くの時間を割いてしまっていただけに指導の変革が期待されている単元である。地図帳に掲載されているNテレビ局の放送網の図を用いて、実際の天気予報やニュースの番組を分析させる授業もあっていい。「東京のスタジオからお送りします。」といったアナウンスと共に「それでは〇〇地方の局からのニュースをお知らせします。」といった切り替えがどうして瞬時にできるのか、テレビショッピング番組を児童に見せて「商品を注文する場合はどうすればいいのでしょうか？」と発問しても面白い。電話による注文が商品を扱っているその会社につながらないで、コールセンターにつながる事実もつかませたい。コールセンターが東京にあるのではなく、遠い地方にあることも児童を驚かせるネタになる。地図帳で自宅のある市とコールセンター所在都市を直線で結び、次にコールセンターと商品の配送を扱っている会社所在都市を結ぶのである。遠く離れた場所なのに瞬時に発注が実行できる情報ネットワークの素晴らしさを地図帳が教材として下支えしてくれる。

⑤ 地図思考を育てよう

学習内容が児童の頭の中で樹形図やピラミッド型、階段図、二項対立図などといった構造図の形でイメージできれば社会科は楽しくなる。国土や歴史の学習内容も自然と人間との関係や歴史上の人間ドラマであるため、舞

台となる場が頭の中でいろいろな構造図としてイメージできれば学習効果が上がる。筆者は最近、小学校教師と共著で書いた著書『図解型板書で社会科授業』（黎明書房）の中で、マルやサンカク、矢印などで板書をまとめる図解指導の効力について具体的に解説したが、よく考えてみれば地図も図の一種である。略地図を黒板に描き、その中に習得すべき学習内容を位置づけることができれば、社会科がわかるようになる。このように図解型で考える習慣を養えば、社会科の学習指導で大事とされてきた事実認識から意味認識への思考法がいっそう確かな学力として身につくだろう。また、図解型板書は児童に丁寧にノートに写すように指導することでノート指導も改善できる。横長い黒板を縦長のノートに写す場合、どうしてもスペースが足りなくなる。その場合にはノートを横に倒して使用するよう指示するのである。黒板の図解をそのままノートに筆記させつつ、児童の頭の中も図解で整理を促すのである。



寺本先生のひとくちアドバイス

- 5年生の地図指導では社会事象の「広がり」を意識して扱おう。
- 6年生の地図指導では歴史上の人物の動きを地図上で確かめよう。
- 略地図も取り入れた図解型板書を導入しよう。